

# みんな和やかサロン

## 洗濯大変！ でも子どもは楽しそう



「え！え～。あ～あ。まっ、いいかあ～」雨上がりの水たまりにお尻をつけたわが子をお母さんは苦笑いしながら見ていました。はじめはソロソロりと近づき、泥が足につくとバシャバシャバシャ。次にしゃがんで両手をつけてバシャバシャ、グチュグチュ混ぜていました。様々な感覚を覚えるまたとないチャンスです。「洗濯が大変ですけど、みんなと一緒に楽しそうにやっているからおもしろいです」と。どのお母さんも最初からこんなに寛大ではありません。我が子以外の子どもたちが遊んでいる様子を見たり、親同士やスタッフと関わったりする中でお母さんの気持ちもだんだんと変化していきます。子どものやりたいことを見守る大人が周りにたくさんいることで子どもたちは満足感や達成感を得ながらのびのびと遊んでいます。

昨年度は「居場所の望ましい在り方について」まとめた報告書を作成しました。こちらぜひ読んでみてください。



報告書はこちら



### 防災事業

## 防災について親子で話し合っていますか？

岡山は自然災害が少ないと言われますが、今や他人事ではありません。私たちに大切「命」。“じぶんの命をじぶんでまもる”を大切に防災ワークショップを行っています。子どもや親子向けのワークショップでは、もし災害が起きたら…を想像し、子どもは、遊びを通して自分の頭を守るダンゴムシになるポーズを体験し、大人は参加者同士が話し合い、考えるきっかけをつくっています。子どもと一緒に、あるいは家族で避難する時にはどうしたらよいか？何を備蓄したらよいか？などを話すことが、大切な命を守ることに繋がります。

### 子ども防災



岡山市  
子どもセンター  
ホームページ



facebook



Instagram

### 岡山市子どもセンターは…

子どもたちが舞台芸術や遊び、異年齢の交流など、様々な体験を通して、豊かな子ども時代を過ごせることを願い活動をしています。

### 随時、会員募集中！

特定非営利活動法人岡山市子どもセンター  
〒701-0144 岡山市北区久米 348 番地  
Tel 086-242-1810 Fax 086-242-1830  
https://www.kodomo-npo.jp/  
e-mail : info@kodomo-npo.jp

### ご支援いただきありがとうございます

..... 賛助会員のみなさま .....

やまもと小児歯科・矯正歯科クリニック/有限会社 ケイズ塗装/設計工房柵株式会社/PMJ 歯科/菱善地所有  
有限会社/ファミリー岡崎歯科/株式会社マルフ電化/株式会社グレート/飛鳥ホンダ株式会社/株式会社 岡山木村屋/東中国産業(株)/株式会社 笠原組/医療法人 小野医院/ふたば司法書士法人/株式会社 城西設計/つばめガス株式会社/岡山博愛会保育園/株式会社 奥野組/NPO法人チルドレンズ・カフェ Honey Drops きび/サンポーエンジニアリング株式会社/株式会社 マスカット薬局/江原晃治税理士事務所 税理士 江原晃治/有限会社 大栄自動車/佐藤耳鼻咽喉科医院/SALT-石川食堂/株式会社木まま (順不同)

A. あそぼう D. どんどん O. おおきくならう。そして、ひろげよう！

# あどねっと

2022年12月発行  
発行/NPO法人  
岡山市子どもセンター

48号



親子で生の舞台を楽しもう  
遊び場にいる大人/セミの抜け殻を10年調査!!  
洗濯大変!でも子どもは楽しそう  
防災について親子で話し合っていますか

## 聞いていますか？子どもの声。

大人は毎日忙しい!  
「ママ～」 「ちょっと待ってね」 「……………」  
また別の場面では、「早くしなさい」なんて声が聞こえてきそうです。

劇団へのプレゼント用のくす玉作りをした時のエピソードです。  
ベテランの会員Kさんは、  
「〇〇ちゃんは、どうしたいのかなあ？」  
「どうやってやればいいのかあ？」と、  
子どもの意見を聞きながら作業を進めました。



大人は、良かれと思い、ついつい先回りのアドバイスを  
してしまいます。子どもに失敗させないで、成功体験を  
経験させがちです。

ついつい口出してしまおう。  
失敗してほしくない。  
人生の選択ならなおのこと。

子どもは、  
転んでも立ち上げられる。  
自分を信じることができる。  
うまくいく方法を考えることができる。

それを見守り、待てる大人が増えたらいいですね。



# 舞台だけのワクワク、舞台だけの不思議

2021年7月  
～  
2022年11月



## 2021年度

**こぎつねコンとこだぬきボン**  
(劇団むう)  
2021年7月3日  
西川アイプラザ

**いつでもどこでもびりとブッチィー**  
(蒼い企画)  
9月11日  
西川アイプラザ

**ミュージカルすてきな三にんぐみ**  
(オフィス・アートプラン)  
11月27日  
西川アイプラザ

**小林陽一トリオ  
キッズジャズ  
コンサート**  
(JJMプロジェクト)  
2022年3月12日  
岡山シンフォニーホール  
イベントホール

**おじいちゃんのちいさなひみつ**  
(劇団うりんこ)  
7月10日  
西川アイプラザ

**天満のとらやん**  
(劇団コーロ)  
9月20日  
西川アイプラザ

**音楽劇一人で演じる走れメロス**  
(芝居屋杜川リントロウ)  
12月18日  
西川アイプラザ

## 2022年度



**かくれ山の大冒険**  
(人形劇団むすび座)  
2022年5月8日  
岡山市立市民文化ホール

**快傑ゾロ**  
(チェコ・アルファ劇場)  
8月20・21日  
岡山県天神山文化プラザ



**かえるのそらとぶ  
けんきゅうじょ**  
(劇団うりんこ)  
11月12日  
西川アイプラザ



### ●求められている舞台芸術鑑賞会

子ども向けの楽しい集まりやイベントが次々中止・延期される中、親子で生の舞台を楽しんでもらえるように鑑賞会を継続して実施しています。

継続したことで、鑑賞会の参加者は徐々に増え、会場は子どもや親子の笑顔でいっぱいになりました。鑑賞後には、生の舞台を観た喜びの感想や子どもが感じた舞台の様子がたくさん寄せられました。人と人とのリアルな交流が減っている中、「目の前で人が演じる」舞台芸術鑑賞はより求められています。

### ●鑑賞会当日までの楽しみ

「走れメロス」の公演前に学校図書館司書によるブックトークを行い、原作や作者について話を聞いたり、「キッズジャズ」ではリズム打ちやドラムの演奏体験をしました。

「かくれ山の大冒険」ではZOOMを使って創造団体と交流し、劇団の内部の様子を見せてもらいました。また、コロナ禍の中で、

「どうやってプレゼントをわたす?」と相談をして、プレゼントを入れたくす玉を作りました。

「快傑ゾロ」では、事前にチェコ・東京・岡山をZOOMで結んでの交流や、岡山市在住のパフォーマーから、人形作りワークショップを、公演後には、チェコの役者さんとの人形作りワークショップをしました。

鑑賞会当日だけでなく公演前に集まってワークショップなどをする中で、人と人が出会い、交流し、つながる楽しさをシェアできる空間になっています。



「キッズジャズコンサート」ドラム体験



「かくれ山の大冒険」くす玉のプレゼント

# プレーパーク



## 遊び場にいる大人

プレーパークは、いつ、誰と、どのように遊ぶかは子どもたちが決める場所です。だから、ぼーっとして何もしないのもOKです。それは子どもが決めたことだから。

大人にだって休日があるように子どもにだって休憩が必要です。どこに行っても大人の価値観で作られたルールばかりで、大人から正しさの視点で常に見られている子どもたち。だからこそ、そこに居る大人がどんな大人でいるかが大切だと思っています。どんな大人かという、失敗を見せられる大人。プレーパークでは大人が遊んでいる様子もよくみえます。そんな大人が多いときは、子どもも楽しそうに遊んでいます。遊んでいる大人は、竹馬に乗れなかったり、ベーゴマ

をまわせなかったり、そんな失敗する大人がいることが、「失敗していいんだよ。」という雰囲気を作っているんだろうなと思います。大人は正しくあろうとするけど、子どもの前で失敗したり、「ごめん!!」と謝れる大人はカッコイイ!!「教えて」と聞かれた時、わからない事でも一緒に悩んでくれる大人を子どもは求めていたりします。

そんなことをおかやまプレーパークにいると気付かされます。失敗してもいいんだよ!!そんな大人が増えたらいいな～。大人も遊んじゃおう!

プレーリーダー マッキー



プレーリーダーと仲間たち

## 体験活動事業



# 自然探検

## セミの抜け殻調査『セミの抜け殻を10年!?!』

今年11年目を迎える「セミの抜け殻調査」が、初めて地元の新聞紙面に取り上げられました。「セミの抜け殻?」「10年?」…「なに?これ?」が取材のきっかけだったそうです。

私たちがフィールドに選んだ国際児童童年記念公園こどもの森は、1979年の国際児童童年を記念してつくられた子どものための公園です。街中にありながら、豊かな自然に触れることができる、まさに自然の宝庫。この豊かな自然と子どもたちをつなぎたいと思い、環境学習センターの山田さん(現所長)に相談したのがそもその始まりです。年齢に

関係なく誰もが「できた!」を味わい、子どもの成長につながるアクティビティとして選んだのが「セミの抜け殻調査」でした。子どもたちと調査をしていく中で、抜け殻から種類がわかる、その個数から環境の変化が見えてくる等々、不思議と発見の連続でした。調査時には、瞳を輝やかせた子どもたち(保護者も)の姿がそこにありました。

ある年の春先、「お母さん、玄関の前の塀に抜け殻を見つけたよ!」と子どもが嬉しそうに報告したので一緒に見に行ったという話を聞き、その翌年、別の保護者からも同様の話を聞きました。

セミの抜け殻が特別なことではなく、日常の一コマになっていることを実感した出来事でした。その子どもたちは、その後も毎年調査に参加し、スタッフ的な役割を担うようになりました。また、まとめ集作成の際には、するどい考察で大人を驚かせもしました。現在、理系の高校に進学し、学びを続けている人もいます。

身の回りにある自然に触れ、不思議と発見を繰り返しながら夢中になる。今年の夏も、そんな時間を子どもと大人と一緒に味わいました。